

# 掛川市こども計画に係る調査結果(概要版)

## 1. 調査目的

「第2期掛川市子ども・子育て支援事業計画」の期間終了にあたり、市民の子育ての環境・教育・保育・子育て支援の現在の利用状況および今後の利用希望などを把握し、新たな計画を策定する際の基礎資料とするために実施しました。

## 2. 調査対象および回収状況

		発送数	有効回収数	有効回収率
未就学児用調査	市内在住の就学前児童のいる家庭	1,500件	770件	51.3%
小学生用調査	市内在住の小学校1～3年生のいる家庭	3,066件	1,843件	60.1%
保護者用調査	市内在住の小学5年生・中学2年生の保護者	2,180件	1,019件	46.7%
こども用調査	市内在住の小学5年生・中学2年生	2,180件	1,019件	46.7%
16～39歳調査	市内在住の16～39歳	1,500件	431件	28.7%

## 3. 分析方法

今回の調査結果を元に、専門的な分析（回帰分析）を実施しました。回帰分析では、単純集計、クロス集計では排除することが難しい他の影響を加味した分析が可能となります。一般的なクロス集計を用いる場合、わかることは2つの変数の関係であり、第3、第4の変数の影響を制御できないため、擬似相関の可能性を否定することが難しく、本当に見たい変数の効果を特定する際には、他の変数の影響も統制することが必要となります。今回、市に重要と考える施策と市全体の満足度の関係を見たいと考えた際、市全体の満足度に影響を与える要素としては、重要と考える施策以外に、性別・年齢といった個人の属性が影響する可能性も大いに考えられます。回帰分析を行うことで、このような見たい変数以外の効果を統制した分析が可能となります。

### <擬似相関とは>

「小学生を対象に算数のテストを行った結果、身長が高いほど算数のテストの点数が高い傾向が見られた。ここから身長が算数能力に関係があるとわかる」という解釈は擬似相関となっている。年齢と身長に相関があり、年齢と算数能力にも相関があるため、身長と算数能力にも相関があるように見える（見せかけの相関）。このように、相関関係がないにもかかわらず、相関があるように見えることを擬似相関と呼ぶ。

## 4. 分析結果

### 1. 子ども・子育て支援事業計画に係る調査

#### (1) 未就学児の保護者

- 公共施設のユニバーサルデザイン（例 おむつ台、多目的トイレ、スロープ）の充実
- 児童館、図書館、子育て支援センター等の充実
- 妊産婦や乳幼児健診、子育て相談の充実
- 育児・介護休業等の取得の促進、男性・女性の家事・育児への参画のための意識啓発
- 短時間勤務制度導入など子育てと仕事の両立を図るための就労環境の意識啓発

#### (2) 小1～3年生の保護者

- 公園、遊び場、ショッピングモール等、商業施設整備の充実
- 児童手当等の子育て世帯向け手当、低所得者に対する費用負担の軽減
- 人とのかかわりを学ぶ教育、子どもの主体性や自己肯定感を育てる教育の推進
- 子育てに関する情報発信、虐待に対する相談窓口、気軽に相談できる窓口等の充実
- 育児・介護休業等の取得の促進、残業の縮減の意識啓発、安定した雇用への支援

### 2. 子どもの貧困対策計画に係る調査

#### (1) 小5、中2の児童

- 起きる時間が早いほど、朝食を欠食しないほど、自身のことを肯定的に捉える傾向
- 中学生に比べて、小学生のほうが、自分の将来が楽しみであると考える傾向

#### (2) 小5、中2の保護者

- 収入が低い家庭ほど、「学習塾や習い事に通わせることができなかった」「家族旅行（日帰りを含む）ができなかった」と回答する割合が高い。
- 収入が低い家庭ほど、「資格取得のための支援」「就職のための支援」の需要が高まる。
- 収入が低い家庭では、困っていることとして、「家にお金がない（少ない）」が多くなっており、収入が上がると「親が自分の気持ちをわかってくれない」が多くなる傾向にある。

### 3. 子ども・若者計画に係る調査

#### (1) 16～39歳の市民

- 世代間交流の促進、楽しめるイベント開催や娯楽施設などの楽しめる場所の充実
- 結婚の意思がある方の必要とする支援は出会いの支援の充実
- 理想と現実の子ども数の差の要因は「経済的負担が大きいから」、「自分の仕事（勤めや家業）に差しつかえるから」のため、子育ての仕事の両立環境整備の充実が重要